

イーハトーブ

関西岩手県人会報 第16号
2010年11月24日発行

発行

関西岩手県人会

〒530-0001 大阪市北区梅田1丁目3番1-900

大阪駅前第1ビル9階 岩手県大阪事務所内

Tel & Fax 06-6344-5969

発行代表者 鎌田 龍児

編集代表者 松坂 定徳

比叡山に賢治を偲ぶ 第46回宮沢賢治法要会

平成22年9月21日宮沢賢治の命日に、例年のように比叡山延暦寺で、宮沢賢治法要会が厳かに執り行なわれた。

この日、関西地方は朝から小雨模様でしたが、法要会直前に、雲間より陽射しが漏れて、その後は秋らしいさわやかな天気となりました。今年は平日(火曜日)のため、仕事で参列できない方も多くおりましたが、それでも会員を中心に36名の参列者がありました。今年は有縁物故者(2名)のご遺族が辞退されたため、追善供養名簿は宮沢賢治ご本人(享年38歳)と、ご実弟の宮沢清六氏(享年98歳)だけでした。(注1)

今年も延暦寺様のご厚意で、宮沢賢治の歌碑の正面に、祭壇の他、マイク、スピーカーや参列者用の椅子も用意されておりました。



延暦寺高僧による読経

定刻(AM11:30)どおり、導師および出仕4名の高僧が椅子に着席すると、主催者の延暦寺法務部長小堀光實師が、比叡山文殊楼脇の「国連平和の鐘」打鐘法要を無事終えてきた、とのご報告とともに、本会参列者へねぎらいのお言葉をかけられました。その後は、本会幹事八重樫善幸氏の司会で、式次第に従い法要会が進行しました。

本会会長の「開会の挨拶」(別掲1)のあと、延暦寺高僧5名による読経が続く中、例年のように関西岩手県人会の鎌田龍児会長をはじめ、各団体のご代表、会員及び特別参列

者など全員による献花・ご焼香があり、賢治ご兄弟を偲ぶとともにご冥福をお祈りしました。故小野誠前会長のご友人、本多康造氏が、わざわざ盛岡より参列され、北水会盛岡支部ご代表で献花・ご焼香されました。昨年は故小野誠氏の有縁物故者追善供養に参列できなかったもので、以前より計画していたとのことです。

次いで、賢治の母校同窓会岩手大学農学部北水会会員による寮歌合唱と、本会会員の星野祐美子氏(フリーアナウンサー)の朗読がありました。今年は、あの有名な「注文の多い料理店」の「序」の朗読で、「賢治さんの歌碑に向かって一心に朗読する」とおっしゃるとおり、心こもった朗読でした。次いで、賢治作詞・作曲の「星めぐりの歌」を、星野さんの指揮のもとに歌い、全員でご供養の気持ちを表しました。最後に、本会初代会長で歌碑建立発願者・葉上照澄大僧正の直弟子で、導師を務められた横山照泰師から、ご挨拶がありました。(別掲2)

午後の講演会は、藤原照雄副会長の司会のもと、特別参加6名の自己紹介と講師の紹介に始まり、京都造形芸術大学教授中路正恒氏が、宮沢賢治の作品と思想―「なめとこ山の熊」と題して、質問を含め1時間30分にわたりご講演下さいました。質問の司会は、藤井勝副会長にバトンタッチされ、哲学的考察が入り、やや難解であったにもかかわらず、4名の方から質問がありました。

帰りには、花巻の宮沢家寄贈の「菊花」および岩手の旧沢内村から取り寄せた「りんどうの花」をお持ち帰りいただきました。来年も(平成23年9月21日水曜日)、平日ですが多くの皆様のご参列を期待しています。

(深田記)

注1

「関西宮沢賢治の会」の会員は、有縁物故者追善供養の対象です。

(別掲1)

「開会の辞」 関西宮沢賢治の会 会長 深田 稔

本日は、遠路はるばる比叡山にお登りいただき、まことに

ありがとうございます。宮沢賢治さんは、生涯に927首の短歌を作りました。その大部分が16歳から25歳の間に作られており、まるで日記代わりに創作したといわれております。賢治さん25歳といえば、大正10年で、賢治さんにとって人生の大きな転換期とされております。その年の1月に家出同然に上京し、国注会に入り奉仕活動をし、その年の12月には、花巻農学校の教師になっております。もう一つ、大正10年4月、ここ比叡山に登ってまいりました。そして12首の歌を詠んでおります。この12首は、賢治さんの短歌の中でも力作といわれておりますが、その冒頭に詠まれた歌が碑に刻まれております。歌の意味は、【この根本中堂の創建時に、敬愛する伝教大師が和歌に託して、「天台の教えの普及と国の平和を願った」、そのことが、どうか御仏のすばらしい教えにより成就しますように・・・】と、そのように解釈されております。「根本中堂 ねがわくは 妙法如来正偏知 大師のみ旨成らしめたまえ」。

こんにち、根本中堂の前に、この歌が刻まれた碑が存在することは、本当にすばらしいと言わざるを得ません。本日は賢治さんの七十八回忌です。延暦寺高僧の皆さんによる読経のもと、賢治さんご兄弟のご冥福をお祈りしたいと思います。宜しく願います。



参列者全員で記念撮影

(別掲2)

「導師ご挨拶」 延暦寺行院院長 横山照泰師

皆さん、ようこそお参りいただきました。この碑を建立したのは私の師匠です。ご存知の方もいると思いますが、師匠が千日回峰を終わって間なしの昭和32年に、有志のご協力をいただいて、それも比叡山の一番大事な場所根本中堂、そこにこの碑が出来たことは大変なことです。比叡山のある限り永遠に残りますが、師匠からは「寝ても覚めても賢治、賢治」とお話を聞かされてまいりました。それほどに師匠は宮沢賢治さんを信奉されておりました。

宮沢賢治さんの作品には、必ず風がいざなう。風の吹くところから物語が始まり、また風が吹いて話が終わる。最近「千の風になって」という歌が流行りましたが、そのはるか以前より、宮沢賢治は「自然のありよう、・・・自然の中に精霊が宿

る」という「アニミズム的な考え」の中で、いろいろ宗教遍歴をしましたが、その果てに最終的に法華經に出会った。浄土真宗の篤信家であった父正次郎氏、宮沢家がゆくゆくは賢治の強い要望によって、日蓮宗に改宗してしまう。



延暦寺行院院長・横山照泰師

賢治さんはこの比叡山に父とともに登ってきた時、法華と弥陀は一体、また仏教に説くところの「怨親(えんしん)平等」、敵も味方もないという考え、それをこの山でお父さんに示されたのではないかと思います。この碑に刻まれた歌の中に、「妙法如来正偏知」とあります。如来は阿弥陀如来をはじめ、たくさんいらっしゃいます。根本中堂のお薬師さんは、薬師如来です。あえて妙法と付けたのは、お釈迦様を指しているわけです。それくらい、釈迦牟尼仏に対する、つまり法華經に対する熱い想い・期待が込められている。この歌から、「ゆくゆくは人類救済」という、本当に規模の大きい、視野の広さを感じることが出来ると思います。

今の世の中、「自分さえ良ければ良い」という風潮が蔓延し、ものに対する感謝の念すら忘れてしまった現代人にあって、この法要は、賢治を顕彰することは勿論、その人となり思想を敷衍(ふえん)していく意味でも、重要な法要だと思えます。最後になりましたが、この会の今後ますますの充実・発展を祈念して挨拶と致します。

「アテルイ・モレの碑」法要

115名の参加で盛大に！

去る11月13日(土)第17回目の「アテルイ・モレの碑」の法要が行われました。この日は黄砂が少し空を薄く曇らせましたが穏やかな天候に恵まれ碑前には「関西アテルイ・モレの会」と「関西岩手県人会」の生花が左右に飾られ一層美しく見えました。今年の参加者は115名が参加して下さり、今までにない盛大な法要になりました。お陰さまで「阿豆流為・母禮」の碑が一段と立派に大きく見え、一般参詣者も足を止めて「関西岩手県人会」「関西アテルイ・モレの会」と書かれた生花を立ち止まって読んでいた人もありました。定刻の11

時には境内に散っていた参加者も全員が集合し、一山の和尚様達も着座され、和賀事務局長の司会で法要が開始されました。



森清範貫主の読経が静かに流れる

森清範貫主が導師となられ読経が流れ、経文が奏上されたのち参加者一同が碑前に用意された焼香台に進み順次焼香をあげ合掌しました。法要終了後「阿豆流為・母禮之碑」をバックに貫主と役僧を中心にして記念写真の撮影会を催し奥州地区、田村地区、関西地区のグループ別に行った後、寺務所2階にある宝蔵殿に案内され非公開である仏像や絵馬・絵画・古文書・梵鐘などの説明を加藤学芸員から詳しく説明を受けた。古参の会員からも始めて拝観したとの感想や喜びの音が聴かれた。

12時20分頃から洗心洞で森貫主の法話と懇親会が行われた。貫主の法話の概要は次のような内容であった。清水寺には江戸時代から伝えられている「清水寺十景」と言う景勝地があるが何故か「秋の景色」や「秋の紅葉」は入っていない。「音羽の滝」や「春の桜」「音羽の浄水」「成就に聞こえる鐘の音」「洛陽の家並み(屋根)」「鴨川の河原」「東光に見える雨(霞)」「西門から見える遠景」「東嶺(愛宕山)にかかると雪」「清水寺から眺める嵐山」などが詠まれているが、現在有名な秋の風物詩である「紅葉の景色」が無い。音羽の滝にかかる紅葉は「錦雲溪」とか「新高尾」と呼ばれて有名であるが、江戸時代には「もみじ」が無かったのではないだろうか。明治の廃仏毀釈で寺は疲弊していた時があり、初代の京都市長が檀家総代をされていて復興に尽力された。その頃に境内を大きく整備されたので、この頃に「もみじ」を植樹されたのではないかと考えている。江戸末期の住職に「月照」「信海」と言う兄弟の勤皇僧が居た。月照上人は成就院24世であり住職をされていたが安政5年に幕府が天皇の勅許を得ずに通商条約を結び倒幕運動が激しくなり京都も探索の手配が厳しくなった。このとき月照上人が弟の信海上人に住職を委ねて西郷隆盛と共に鹿児島を目指して京を逃れた。一時福岡に滞在したが薩摩の錦江湾に身を投じて没した。今月の16日は197年目の命日である。大西良慶和上がこの忌日を「落葉忌」と名付けた。月照上人が没すると信海上人も寺で捕らえられて江戸に連行されて牢死している。共に歌人であり辞世の句を残している。

「大君の ためには何か 惜しからん 薩摩の瀬戸に 身は沈むとも」 月照上人

「西の海 あずま(東)のそら(空)と かわれども ころは おなじ 君が代のため」 信海上人

秋にはアテルイ・モレの「法要」と月照・信海上人の「落葉忌」があり、年々アテルイ・モレの法要も盛会となるのが喜ばしい、と結ばれた。

続いて松坂会長の挨拶がありご多忙のところ多数の方が参加されたことを歓迎すると述べお礼の挨拶があり、衆議院議員の穀田恵二氏、



新しく出来た「関西アテルイ・モレの会」の旗を持つ

(左から)穀田恵二衆議院議員、小沢昌記奥州市長、清水寺森清範貫主、柏山喬副会長

奥州市長の小沢昌記氏、胆江日日新聞社長の佐々木隆男氏、アテルイを顕彰する会会長の及川洵氏、田村歴史観光協議会会長代行の影山勝夫氏から来賓祝辞があり、鎌田副会長が関西岩手県人会長として乾杯の挨拶と乾杯の音頭により清水寺から差し入れのビールで全員が唱和して乾杯した。会場が一斉に和み隣席の人との談話や談笑が聞こえ懇談が行われた。人気者の森貫主の席には女性陣が集まり思い思いの撮影会となった。貫主は食事の時間も儘ならないままで2時半予定の奥州市グループの退出時間となり柏山副会長の仲締め挨拶となる。飛び入り挨拶として元岩手県副知事の濱田明正氏、伝アテルイ・モレの塚保存会長の中野一雄氏からの祝辞、わらび座の椿氏・谷本氏により「劇団わらび座創立60周年記念特別公演」として“ミュージカル「アテルイ」”が京都公演が「再演」となるとのことでパンフレットの配布と説明がなされた。元役者の椿氏がアテルイの歌を高らかに歌い公演のPRを行った。その後来賓紹介と役員紹介を行い、閉会とした。

関西からの出席者は下記の人達であり御礼を兼ねて紹介します。敬称略。35名。

安倍寿明・荒木かつ子・伊藤昭・奥村昭吾・小野寺正芳・柏山喬・鎌田龍児・熊谷克己・熊谷俊夫・小瀬川操一・小瀬川美代子・金野衛・佐々木亨・佐藤耕吉・島忠征・島信子・菅洋子・菅原文雄・鈴木綾子・鈴木力・堯律子・高橋清紀・高橋由美子・谷本勝重・永田光悦・濱本昌範、夫人・深田稔・藤井勝・藤原照雄・松坂定徳・村上忠夫・吉田真二・和賀亮太郎・わらび座

(松坂記)



森貫主を囲んで県人会参加者



名調子を聞かせた八幡勝栄さん(右)



3 県合同納涼ビアパーティー

初の試みである3県県人会合同納涼ビアパーティーが、7月25日、大阪梅田新道の「スーパードライ梅田」でにぎやかに行われた。大阪は、今年猛暑に見舞われたが、ビールでも飲んで暑さを吹き飛ばしませ



(左から)青森・須郷、岩手・鎌田、秋田・畠山
3県人会会長

んかと、青森、秋田両県人会に呼びかけたところ90人を越える参加者が集まった。酒豪ぞろいだけに、主催者挨拶の前の

ウェルカム・ドリンクから急ピッチで盛り上がり、各テーブルともに「乾杯」「乾杯」の連続で、一気に最高潮に達した。

お国自慢の民謡に踊りの輪広がる

各県自慢の出し物が次々に披露されたが、お国自慢の民謡をはじめ、カラオケ、民謡の手踊りからフラダンスまで飛び出し、さながら一大郷土芸能大会となった。岩手からは八幡勝栄さんが格調高い尺八演奏を披露したが、事前にかなり綿密に仕込んだと思われる秋田・青森の圧倒的なパワーが会場を支配した感があった。しかし他県の方々とビールを酌み交わし、親しく懇談できたことは何よりの収穫だった。来年も7月ごろ、今度は近畿青森県人会の幹事で行われる事になっている。編集部

県事務所吉田次長大活躍！！ ABC朝日放送『今ちゃんの実は』放送秘話

3月12日(金)夕方にABC朝日放送のディレクターから事務所に電話がありました。この日は県の人事異動内示の日で当事務所からは2名の転出が発表されたばかりであり、他にも年度末ということでバタバタしているところへの電話でしたが、「今田耕司がメインのABC朝日放送『今ちゃんの実は』(水曜日 23:17～)の中で、新しくご当地グルメをPRするコーナーを作る。各県の大坂事務所を取材して競ってもらおう。皆さんに大喜利をしてもらおうかと考えている。」といったよく分からない説明に始まったので、「大喜利では各県の担当者が困るのでないか。」などと助言をして、話をよく聞いてみました。

「都道府県の職員がお笑いの本場である大阪に赴任したからには、体当たりでPRしなければならない。皆さんの熱意あるPRを取材したい。4県を取材するが、バラエティー的に面白かった3県だけオンエア。」というもの。

取材予定日まで1週間ちよつとしかかない中、企画もよく分からないことから普通であれば断るところですが、「最初にいくつかの県事務所に取材申し入れをしたが、対応してもらえなかった。某県が乗り気に対応してくれ、岩手県の吉田さんなら引き受けると思う、と紹介された。」とのこと。昨年、吉本新喜劇に出演したことが知られていたため、せっかくの機会でもあり、「他の県が引き受けるのに私が断る訳にいかない。」と引き受けました。

翌週、事務所でディレクターと打合せした際は、ご当地グルメの選定について、「なるべく知られていないものが多い。」ということで、盛岡三大麺のうち、盛岡冷麺、わんこそばに比べると知名度の低いじゃじゃ麺ではどうかと説明した

ところ、了解されましたが、収録直前の週末に携帯電話が鳴り、「チーフディレクターから『じゃじゃ麺はメジャーだから(よく知られている)』と言われたので、他に何かないか?」とのこと。

岩手県産(株)大阪営業所やアンテナショップ・ジェンゴ店長に相談し、岩手町の肉屋さんがホルモン鍋に合う麺として開発した「ホル麺」になりました。2日前の月曜日朝に商品を発送してぎりぎり届くことに。

ただでさえ忙しい3月なのに、打ち合わせのたびにディレクターの要求が高くなったりして、引き受けたことを少し後悔したりもしていました。

こうして迎えた3月17日(水)の収録本番。鍋やガスコンロ、食器は自宅のものを持ち込み、ホルモン鍋の調理は、この日、勤務でなかったジェンゴの女性スタッフ(実は盛岡市出身)にお願いして準備してもらいました。



「さんさ踊り」の太鼓を持つ吉田次長

青森、秋田の職員には出張の時間をずらしてもらって着ぐるみ応援をお願いし、岩手県産の社員にもクイズの補助をお願いし、ほとんどぶっつけ本番。この日、たまたま関西奥州会の会議のために集まっていた県人会の皆さんも、見物のはずが結局出演することになりました。

吉本芸人のシャンプーハット相手に、さんさ踊りや南京玉すだれ、クイズなどで盛り上げようとしたのですが、カムわ、トチるわ、冷や汗ばかり。前後2時間の取材中、カメラが回っていた時間は20分間で、あっという間に終わってしまいました。あとはおもしろおかしく3分間に編集されて、スタジオの今田耕司ほかゲストにいいようにコメントされるんだらうと思いつながら、何もしないより岩手が話題になる方がいい、と自分を納得させていました。

収録後は、神戸で春のセンバツに出場する盛岡大付属高校の激励会に出席。そのあとは県人会の皆さんとの飲み会で、収録に参加した話題で盛り上がりました。とてもとても目まぐるしい1日でした。

4月28日(日)実際にオンエアされたのは、放送順に熊本県、岡山県、岩手県でした。初めて見る他県の場面では、短い準備期間で結構な取組みになっていました。あとで聞いたら、ご当地グルメは大阪に協力してくれる飲食店があったり、担当者がやはりかなりがんばっていた、とのこと。

番組コーナーの紹介では、「取材に行ったら、大阪事務所の人たちがバラエティ番組だからと、がんばっちゃったみたいで。」とコメント。本当は、「がんばってやらないとオンエアしませんよ。」というディレクターにのせられたからなのですが。

ホル麺を紹介している最中に「じゃワシら行くから」と言って、県人会の皆さんが関西奥州会のため会議室へ。シャンプーハットからは「岩手の宣伝よりもっと大事な用事で帰られます〜。」と突っ込まれるところが放送されました。事務所の同僚からは、「これ使われるよ!」と言われましたが、見事に放送されました。

放送後は、これまでお話をしたことがなかった方々から「見ましたよ。」と声を掛けていただくなど、さすがマスコミの力を感じました。

実はこの原稿を書いている時点で、第二弾の取材を受けました。11月10日(水)の放送予定ですので、本誌を手にする頃には既に放送されているものと思います。今回は、前回出場の御礼にと小藪千豊さんが招待状を持って来ましたが、内容はこの日の夜10時から朝日放送の美術倉庫特設リングでローションプロレスを「やること」でした。我ながら、そこまでやるかとも思いましたが、まさに体当たりで岩手県のPRをしたつもりです。

日中の業務についてはこれといった成果を出すことが難しいですが、吉本新喜劇への出演、朝日放送「今ちゃんの実は」への出演2回を通し、関西で低い岩手県の知名度を少しでも上げることに寄与できれば幸いです。

(岩手県大阪事務所 次長 吉田真二)

菊池秀一さん(一関市川崎町)

美容教育貢献で大臣表彰!!

大阪市のグラムール美容専門学校を運営する一関市川崎町出身の菊池秀一さんが、美容教育の向上に貢献したとして厚生労働大臣表彰を受けた。1996年に、妻笑子さんと、学校法人グラムール学院グラムール美容専門学校を大阪市難波に設立。菊池さんが理事長、笑子さんが校長として学校経営に当たり、美容師国家試験合格率が、毎年98%前後と、全国トップレベルの学校に育て上げた。

菊池さんは「56年に大阪に来て以来50年以上になるが、こんな晴れがましい表彰を受けるとは思わなかった」、笑子さんは「岩手県民の実直な性格が、ここまで育ててくれたと思っています」と喜びを語っている。

—岩手日報 WebNews より—

岩手の自然、四季を写真集に

—多賀谷真吾さん—

兵庫県西宮市と岩手を行き来して活動する写真家の多賀谷真吾さん(40)は、初の写真集「いわて旬華(しゅんか)愁凍(しゅうとう)ーイーハトーブの国から」を発売した。写真集は全10章で約200点を収録。第1章の「南部の富士は高く尊くー岩手山」に始まり、第4章の「水のゆくえー岩手の川と滝」、第10章の「三陸の秘境ー船越半島」へと続き、岩手の山・川・海の自然の移ろいを表現している。滝沢村鶴飼から撮影した「樹影」は、早春の青空に映える岩手山と雪原に伸びる木々の影が美しいコントラストを描く。西宮市在住の多賀谷さんは、10年ほど前にスキーをするため岩手を訪れて以来、岩手の「優しい自然」に魅せられ、関西の大学で英語講師を務める傍ら、2007年には岩手県へ住民票を移した。写真集はA5判、200ページで2625円(税込み)。

—岩手日報 WebNews より—

お知らせ: 来年1月の新春懇親会の席上、多賀谷さんの写真集の即売会が予定されています。

北東会ゴルフ 岩手4位と奮わず



第24回北東会(ゴルフ会)が秋晴れの10月7日六甲カントリー倶楽部で開催された。一道7県の代表80名の総出場者の中、わが岩手代表は下記の8名の参加で全員健闘結果団体戦は4位(昨年は3位)とやさびしい結果となったが個人戦では、われらが中年の星である濱本氏が堂々2位の成績であった。一方、藤井氏はグロス83と健闘したがハンディキャップに恵まれず不運にも21位であった。また、ベテラン柏山氏は今回も健闘し、団体戦に貢献した。

なお、団体戦優勝は北海道で昨年に続く2連覇となった。2位は幹事の福島県であった(来年の幹事は青森県)。

本県の不振の原因は参加者希望者が少ないことである。当初の参加申し込みが11名であったが15名程度の参加希望者が望ましいと思われるので次回には万全の体制をとりたいものである。

なお、桐友会会長の菊池秀一氏は今回出場されなかったが、9月29日会員全員を呼ばれて激励会を開催していただきました。感謝申し上げます。

当日の出場者(スタート順):

柏山喬、松本泰州、高木浩、外浦記代美、熊谷克己、藤井勝、濱本昌範、菅原三男 計8名

—熊谷 記—

—関学院初戦で敗退

第92回全国高等学校野球選手権大会に出場した一関学院は、大会2日目の8日、第3試合で石川県代表の遊学館高校と対戦し、0対11で敗れた。自慢の打線がわずか3安打に封じ込まれた上、6回には守備の乱れもあり、大量失点する苦しい展開となった。甲子園初戦突破は出来なかったが、県人会応援団は、笑顔でプレーをする選手に最後まで声援を贈りました。岩手代表校の次の挑戦を切に祈っている。

—編集部—



黒沢尻工業

2年連続花園出場

全国高校ラグビー

第90回全国高校ラグビー大会岩手県決勝は、10月24日、盛岡市の盛岡南公園球技場で行われ、黒沢尻工が19対12で盛岡工を破り、2年連続25度目の優勝を遂げ、花園出場を決めた。伝統の赤ベコFWと自慢のバックスが上手くかみ合っている今年の黒工は楽しみだ。1年生の多いチームを波に乗せるのは熱い応援です。県人会揃って応援に行き正月を選手と共に花園で祝いましょう! 試合日程は、新聞、テレビ等でチェックして下さい。

編集部

事務局 掲 示 板

☆新春の総会・懇親会のご案内☆

平成23年度の総会・懇親会を、1月23日(日)大阪梅新角の「スーパードライ梅田店」で行います。11時から総会、引き続き12時から懇親会で、総会では、新しい役員の顔ぶれが決まります。達増知事にもご出席をお願いしています。年1回のチャンスです。多くの会員の皆様の参加を期待しています。

会員動向(敬称略): 千葉直樹(奥州市)

佐藤耕吉(奥州市) 及川光夫(奥州市)

死亡退会: 佐藤清己 菊池成人

今年も残り少ない月日となりましたが、事務局はあわただしくも緊張のうちに過ごしております。先ず現在の役員の任期が来月の12月末で終了するので明年1月23日の総会までに新役員が就任できる体制をとっておかなければなりません。12月半ばには候補者が内定することになっております。

年内の残る行事は12月末から始まる花園で行われる高校

ラグビー全国大会の郷土代表高校の応援です。

最近の世相は厳しい状況にありますが来年は皆様にとって、より幸せな年となりますよう祈念申し上げます。今年も関西岩手県人会に種々ご協力を賜り有難うございました。

事務局 熊谷克己、加藤文雄

編集後記

今年は、県人会のホームページ立ち上げに時間を取られ、会報の発行が滞ったことを、お詫びいたします。(龍)